

**京都市はぐくみ推進審議会 令和元年度第1回**  
**「子どもと若者の未来をはぐくむ社会環境づくり部会」 摘録**

**日 時** 令和元年7月29日（月）18：30～20：30

**場 所** 京都平安ホテル 3階 羽衣

**出席者** 山本智也部会長，伊豆田千加委員，稲川昌実委員，井上直樹委員，大澤彰久委員，沖豊彦委員，奥野美奈子委員，川中大輔委員，長澤敦士委員，畑山博委員，藤本明美委員，升光泰雄委員，山口裕司委員（13名）

**欠席者** 指宿達也委員，野田昌代委員，水野菜々委員（3名）

**次 第**

1 開会

2 議題

- (1) 「子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）」の策定について
- (2) 京都市はぐくみ・働き方改革推進宣言（案）について

(司会：奥山 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課企画担当係長)

事務局	<p>【議題（１）】 「子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）」の策定について</p> <p>資料１ 「子ども・若者に係る総合的な計画」（仮称・素案）について 資料２ 新計画に記載する施策・主な取組（案）について に基づき説明</p>
伊豆田委員	<p>資料２について、若者の部分が欠けている。働くこととか、結婚のこととか、外国人との関わりという意味では、多様な社会というものを受け入れる環境づくりというものを言葉で、数行でも足すことによって、子ども・若者に係る総合的な計画になるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>先日の全体会議でも、ユースサービスという視点を重視すべきという示唆を頂いていた。今後、その視点が抜け落ちないようにしていきたい。</p>
藤本委員	<p>「誰ひとり取り残さない」ことを具現化していく中で、どうやったら助けてと言えるのかということ、若者や中高生も含め、教えてもらう機会がない。</p>
事務局	<p>行政だけで網目をかけるのは難しいと思う。全市レベル、区役所、地域レベルの３層レベルでネットの構築に努めている。区役所・支所でも、家庭訪問しているが、なかなかキャッチできないケースがたくさんある。例えばDVでも、今まで児童相談所で受けていたものを今年度当初から一部区役所・支所に移し、できるだけ幅広くキャッチできるようにしているが、限界があるので、身近な地域の関係機関と協力して網目を小さくしていくと。できるだけ色んなアプローチでキャッチできるよう努めており、今後も続けていきたい。</p>
山本部長	<p>子育て家庭の孤立防止のところで、待っているだけの支援だけでなく、こちらから届けるとか、色々な家庭のニーズを掘り起こしたりすることを書いてもいいのかなと思った。主な取組が、拠点事業、待機児童ゼロ、居場所づくりの３つだけの列挙でなくて、様々な孤立防止にしっかり取り組んでいければと思う。</p> <p>若者の方は、公共サービスを受ける力を育てることが大事だと思っているので、自立して自分でやっていく若者だけでなく、困った時には色々なサービスを受けて手を挙げるができる、それも立派なライフデザイン形成である。特別な支援とライフデザインは別個にあるのではなく、</p>

<p>升光委員</p>	<p>そこにつながりはあるのだろう。</p> <p>私は、真のワークライフバランスを推進してきたが、現実にワークライフバランスが取れていないのはまさしく大人ではないかという感じがする。大人のため、子ども・若者のためというよりは、社会全体がそういう生活を目標にし、若者に提供するというのを越えて、私たち自身が望んでそういう場を提供する必要がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>大人自身が、というのは、委員がおっしゃられるとおりである。</p>
<p>川中委員</p>	<p>すべてに言えるが、これらは既存の取組が記されており、充実させていこうという方針だが、逆に従来の取組の評価をし、課題があれば、それを乗り越え、踏まえた取組を検討すべきである。既存の取組は良いという前提で課題はないということであれば、一層推進していけばゴールに到達すると読めてしまう。</p> <p>どういう現状課題があって、よりネットワークを緊密にしていくために、どのような課題があると認識されて今回の提案に至っているか、教えていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>全体の課題としては、資料1の3で掲げている。</p>
<p>川中委員</p>	<p>それは施策の課題でなく、環境の課題でないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>施策の評価としてということであれば、現行計画の進捗管理の状況は次回の審議会で報告させていただきたい。</p> <p>新たな取組の充実・継続という点でいえば、子ども子育て支援新制度ができて、4年と少しが経過したところであり、新制度で予定されていたメニューはこれまで大方やってきたので、全く新しい取組はあまりない。課題がないわけではないが、これまでの取組の充実を図っていくという方向性が考えられる。</p>
<p>川中委員</p>	<p>基本理念について、ユースサービスの考え方を表明されたほうが良い。子どもや若者が支援される対象だけでなく、社会を形成していく対象であるということの基本理念の中でもうたうべきであるし、京都市の先進的な取組であるユースサービスの言葉を明記しなければ後退しているように見えてしまうのではないか。</p> <p>資料2は、1ページで、1に、外国籍市民、性の多様性が触れられていることは良いと思っている。多様性の尊重の観点に加えて、人権保障</p>

	<p>という観点を加えなければならず、保障すべきところは公的な領域で保障されなければならない。具体的には、日本語学習がボランティアに依存しているというのは不安である。</p> <p>「2 市民ぐるみ、地域ぐるみで…」だが、やはり子ども子育ての取組しか書いていないので、若者の観点をに入れていただきたい。具体的には、青少年活動センターを拠点とする関連する小中高、学校機関等との連携の促進について、今後更に評価する必要があるかと思う。とりわけ、高校中退という課題を考えると、この連携は極めて重大なテーマとなる。そういった意味で、青少年活動センターと特に学校機関との連携は記載が必要。</p> <p>2ページの「1 京都ならではの文化に触れ…」の主な取組に、「若者の市政や地域コミュニティへの参加機会の提供」とあるが、若者に参加機会を提供するだけでなく、参加の機会の提供と、その実質化を伴う仕組みづくりまで踏み込まなければ、あまり意味がなく、むしろ逆効果になる可能性がある。</p> <p>第3章の主な取組で、現在は、地域でのネットワーク形成に主眼が置かれているが、広域的にテーマを設定し、関係する色々な団体が議論する場が必要になってくると思う。要保護児童対策地域協議会のようなものはあるが、むしろそこに行かないような支援については、地域の中で実質化していくことが必要ではないか。</p>
事務局	<p>反映できるもの、できないものを精査し、取組については、現時点で盛り込むことができないものもおそらくあるが、検討させていただきたい。</p>
	<p><b>【議題（2）】</b></p> <p>京都是ぐくみ・働き方改革推進宣言（案）について</p>
事務局	<p><b>資料3 京都是ぐくみ・働き方改革推進宣言（案）に基づき説明</b></p>
山本部長	<p>先日の全体会議において、幼保推進部会からいきなり社会環境づくり部会で議論してくれ、と言われた。納得しきっていないが、幼保推進部会でなく、様々な視点から意見がほしいということなので、御了解いただきたい。事務局とも相談したが、3ブロックくらいに分けて、それぞれで様々な意見を取って、そのうえでどんな意見が出たかを後で報告していただこう、という進め方をしたいと思う。</p>

長澤委員

**【Aグループ発表】**

次のような意見があった。

- ・ この宣言の主体である、子育てを担う人達にはどういった人たちがいるのか、ということをもっと深く考える必要があるのではないか。
- ・ 京都には、家庭という枠に収まらず、地域で子どもをはぐくむ文化があるが、それをどうやって継承していくかが課題である。
- ・ 今の社会、子どもを産むことがどのような意義を持っており、果たして若い世代が望んで子どもを産むのだろうか。
- ・ どれだけ企業に対して短時間労働を求めても、生産性は思うようには上がらないため、結果的に長時間労働はなくなるのではないか。
- ・ 価値観が多様化していることから、宣言文の文面だけではなく、改めて宣言の前提にある価値観を問う必要があるのではないか。

大澤委員

**【Bグループ発表】**

次のような意見があった。

- ・ この宣言案が出された背景として、これまで保育園等の整備に係る数値目標を立てることばかりが重要視されてきたが、将来を見据えると、数値だけでなく、幼児・教育の質も伴ったものにすべきである。
- ・ 保育園のステータスをより高めるものにしていかなければならないという意見がある一方で、働き方改革に力を入れていくことは必要だが、多様な価値観がある中で、もう少し抽象的な内容にした方がいいのではないか。
- ・ はぐくみ文化については、地域力に差が出てきており、コミュニティが弱体化していることを踏まえて宣言の内容を考えないといけないのではないか。
- ・ 宣言を出すからには、企業が賛同しやすい中身にすべきであり、地域社会で社員がどのような役割を果たすのかということについても書いた方が良くはないか。
- ・ 京都市民であれば、可能な範囲で地域社会に関わっていきましょうという内容を入れ込んではどうか。

川中委員

**【Cグループ発表】**

5点、議論があった。

1点目は、宣言を出すだけではなく、当事者を交えて話し合っていく場を増やさないと宙に浮いた議論になってしまうのではないか、ということである。

2点目は、子育て世帯が京都から転出してしまうことについては、労働環境だけではなく、観光や景観、居住環境など様々な要因や施策が関

係しているのです、働き方を変えたら、少子化が解消していくというメッセージは、やや安直過ぎるのではないかとということである。

3点目は、働き方改革という話で、現在書かれている働き方改革の例示は正規雇用者をやや念頭に置いており、非正規雇用者が抱える子育ての課題に寄り添っていくという観点が弱いということである。非正規雇用者がいい環境で子育てできるまちを目指すというメッセージも忘れてはいけない。

4点目は、賛同する企業が増えてもあまり意味がないのではないかとということである。宣言を守ることがインセンティブになるような仕組みをセットにしなければ、その履行が実質化しない。

最後に、若者の観点を入れるのであれば、若者が新しい働き方や生き方のモデルに触れる取組を入れた方が良いのではないかとということである。

(以上)